

写

真をアルバムに整理できるというのは、どういう指向や才能が必要なんだろうか、と思う。というのも、自分のアルバム作りなどついぞしたことがないし、したいと思ったこともない。どうせ見ない、とわかつていたので無駄としか思えないのである。

教員という仕事をしていると、記念写真の機会は毎年確実にあり、写真も子どもたちのと職員のと配布されるのだが、もらうはしから散逸していく。いつのころからか購入するか聞かれるようになったが、正直に「いらない」と言うのも、何がそんなに不満かと思われやしないか気になって、仕方なく買っていた。それもしまいにはどうでもよくなって「いらん」と言うのも平気になった。

集合写真も当然意志薄弱である。中学生の時、なぜみんな前を向いて写っているのかに疑問になつて、都度カメラのある方向から目をそらしていたら、「一人だけカメラを見ていない人がいる。それも全部の写真で。宮森君」

担任教師は、みんなの前できつい調子で言った。写真に統一感が失われてしまったのはこいつのせいだ、と公開処罰に及んだのだ。その後、配られた写真は、確かにどれもぼくだけ右や左を見ていた。なるほど、こういうふうになるのか、意外と目立つもんだ、とい

う実験結果を得たのだったが、担任がどれほどそれを忌々しく思ったかは、自分がその立場になるまでわからなかった。幸い級友たちも、それがどうした、というふうで一切問題にせず、担任の腹立ちも共有されないうままで終わった。写真全体を評価するような意識は生徒のどれも持ち合わせていなかった。

北海道に行くのにカメラを持っていくかどうか少しだけ迷ったが、ノートを一冊持参し、とどめておきたいものに出合ったら、文章で表すかスケッチすればいいと考えた。相変わらず写真には妙に構えてしまうし、第一今ほど気楽なものではなかったのだ。

結果、ノートには、いくつかのスケッチと日記が残った。写真は、旅行中出会った青年が同情して撮ってくれた一枚だけだ。それで十分だった。そのノートを後で見返すことはほとんどなかったし、一枚限りの写真もとづくに紛れてしまった。だからカメラを持つて行つたとしても同じことだったのだ。今でもスケッチした昭和西山、洞爺湖、摩周湖などは、昭和五十四年のそれを隅々まで思い描くことができる。それをねらったわけではないので、まったく結果的に。

時間などどうでもよかったあの時の旅は、望んで得られるほど安価なものではなかったのだ、と一枚も持たぬ写真が教えてくれる。

木幡智恵美

義母の異変 (1)

義母の昼夜逆転現象が最初に起きたのは、九十九歳の二月にインフルエンザに罹り、肺炎を起こして入院した後だ。退院予定の前日に大腸の憩室出血を起こし、入院生活は三週間に及んだ。家に帰ってからの一箇月は大変だった。生活リズムが全く狂ってしまった。体力は落ちていたものの、その頃はまだ動けたので、夜中にごそごそしてパットを替えたり、紙おむつを脱いだり。一か月は毎朝洗濯機を二度回した。退院後、日が経つていき、暖かくなる頃には大分収まっていたが、冬になり、圧迫骨折を二度繰り返し、歩くことができなくなると、また昼夜逆転現象が起きてきた。何しろ、自力では動けない。家にいる時は、そろそろトイレかなと思つて覗くと、大概眠っている。炬燵板にかがみこむようにして寝ていることが多く、「また、圧迫骨折になりますよ」と毎回声を掛けた。いくら言つても、忘れるのか、薬だからそうするのか、覗くと背中を丸めている。夫とリクライニングの椅子を買ってきて、一番傾斜の低い地点にし、前に屈めないような状態で座つてもらふようにした。

昼ご飯を持つていくと、「今、朝かいね、晚かいね」と、聞かれる。「お昼ですよ。ご飯持つてきましたよ」と答えると、「もう訳が分からんわ」と情けないような声を出される。「きんさんぎんさんも、丸一日中寝て、次の日起きてついで生活だったようですよ。婆ちゃんも百だから、こうなりますわね」と言うと、「百歳だもんね」と笑っていた。

デイサービスに行った日は、「まあ、皆が騒ぐけん、寝られんがね」とこぼすことがよくあり、「食事の後は自由時間で、眠たい人は寝るし、テレビを見たい人は見るし、好きに過ごす時間だつて」と、その度に返した。本人の言によると、二時間くらい眠るらしい。帰つてくると、「雄ちゃんはまだかね」を繰り返す。「六時まで仕事ですからね。それから車で帰るから、もうちょっとかかりますよ」と同じ返答を繰り返す。そのうちに居眠りを始める。皆で揃つて夕食を食べた後も、こくりこくりとやっていることが増えてきた。暑くなつてくると、昼夜逆転はますますひどくなり、夜中にドンドン襖を叩くことも少

しずつ増えてきた。その音は階段の上がりげにある息子の部屋に一番よく響く。「寝不足で、仕事きつかったわ」と、息子がこぼすことも増えてきていた。



30代フリーター やあ、ジイさん。新しい自民党総裁にふさわしいのはだれかを問う報道各社の世論調査で河野太郎が群を抜いている。

年金生活者 総裁選の候補者の中で安倍・菅政権と最も距離があると思われるからだろう。

朝日新聞の世論調査（9月11、12日実施）では、次の首相が安倍晋三や菅義偉の路線を「引き継がない方がいい」が58%で、「引き継ぐ方がいい」の28%の倍以上にのぼっている。安倍・菅政権の前近代的なところが嫌われたと推察される。国会を開きたがらない独裁者の体質、それと表裏一体のモリカケ・桜に見られる公私混同、相次いだ国民への説明の拒否などがそれを語っている。

それにくらべれば、河野太郎には欧米的な近代性がある。空気を読まずに物を言うのは合理性を物差しにしているということだ。話をわかりやすくするため理想化した言い方をすれば、それは国会での論戦に快感を覚え（小

そんな「医療権力」に「政治権力」はコロナ対策でこれまで押されつぱなだった。少しでも経済を回そうとGOTOトラベルに執心すれば、たちまち専門家と世論の批判を浴び、力を削がれていった。歴代最長を誇った安倍政権が一気に弱体化し、その後継の菅政権も1年で退陣に追い込まれた経緯は、「医療権力」の強さを見せつけた。

30代 それで自民党の派閥も弱体化したというのか。

年金 「政治権力」の弱体化の背景には「医療権力」の強大化のほかに、もうひとつの流れがある。消費の過剰化にもなう国家から個人への権力の分散だ。分散した権力を手にした国民はそれに相応する処遇を求めるようになり、自分たちをないがしろにする「政治権力」を認めなくなつた。自民党内の派閥のせめぎ合いは、国民に目を向けず、身内のことしか眼中にないように映る。総裁選で各派閥が相次いで事実上の自主投票を決めたのは、そうし

泉純一郎にはそんなところがあつた）、国民に説明する力を自らの政治力と考え、公私の別を明瞭にすることを仕事の土台とする政治家像を思い浮かべさせる。実際の河野太郎はそれは違うだろうが、それを期待させるほど彼はこれまでの自民党の政治家とは異なるメンタリティーを備えている。

30代 総裁選は岸田派を除く6派閥が自主投票で臨む異例の展開になった。

年金 新型コロナウイルスは菅政権だけできなく、それを支えた自民党も追い詰め、派閥の弱体化を加速した。

菅政権と自民党を追い詰めたのは直接にはコロナそのものではなく、医師会や病院業界をはじめとする医療界であり、それに同調する国民世論だ。政権と与党の持つ権力を「政治権力」と呼べば、それはことコロナに関する限り医療界の持つ「医療権力」の下位に立つことを余儀なくされた。

30代 マスメディアの論調は逆だ。政権が医療の専門家の言うことを聞かないから感染が広がっているというよう

た国民の意識を敏感に察知した中堅・若手議員をコントロールできなくなつたからだ。

30代 対する野党は、朝日新聞の世論調査で立憲民主党の支持率がわずか5%と、まるで振るわない。

年金 国民民主党に至っては0%だ。かつて民主党政権を担った議員もいる政党とは思えないほど低迷している。

な報じ方をしている。

年金 「医療権力」の強さは、国民の医療への信頼、それも「信仰」と呼んでいいほどの厚い信頼に支えられている。それは、自然法則によつて決まる人の生死をあたかも医療が決めるかのような錯覚となつてあらわれている。その背景にあるのは人命を何よりも大事と考える現在の社会通念だ。

その「医療権力」が新しい感染症に遭遇したときに真つ先に考えるのが感染の抑え込みだ。感染の拡大は医療逼迫、医療崩壊を招き、それがやがておのれ自身を危機におとし入れる。それを阻むためにこの権力が選ぶのは、自らの振る舞い方の変更、つまり医療提供体制の拡充ではなく、人びとの行動の制限だ。

その視野には、行動制限が招く経済の停滞や個人の心身の不調は存在しない。それは医療の領分外のものだからだ。こうした視野の狭さは、未知のウイルスへの恐怖から国民が陥つた視野狭窄とシンクロナイズした。

最大の理由は「中道保守」路線に純化し、「多様性」が薄いことにある。

路線の純化は共産党や公明党も同様だが、両党とも同じ調査で3%の支持率を獲得している。共産党は社会主義を掲げるイデオロギー政党で、公明党は創価学会に支えられた宗教政党だ。言ってみればどちらも取り替えのきかない政党なので一定の固い支持層がいる。

これに対し、「中道保守」は自民党の中に同じような考えの持ち主がいくらでもいる。国民民主党が自民党とは異なる政党として存在する理由は、少なくとも路線の面ではそれほど大きくない。つまり共産党や公明党に比べれば取り替えのききやすい政党ということが出来る。

今回の調査でやはり支持率0%となつた社民党とれいわ新選組についても国民民主党と同様のことが言える。私たちの国で多数派になるのは「多様性」を備えたハイブリッド政党であることをそれは示している。

ニュース日記 801
中村 礼治

コロナが変えた 自民党総裁選